

「欧州難民危機の虚像と現実」

(フランス語、逐語通訳あり)

国民の4分の1にあたる500万人が難民となったシリアをはじめ、中近東やアフリカなどから難民がヨーロッパに押し寄せ、さまざまな問題を引き起こしている。近年、ヨーロッパの難民問題は、日本でも報道されてきましたが、このような理解は正確に現実を反映しているのでしょうか。問題の解決には何が必要なのでしょうか。長年、ヨーロッパで移民・難民支援の現場で活躍してきたクレール・ロディエさんを講師に招き、メディアで伝えられることと実態との違いをお話しいたします。



講師紹介

クレール・ロディエ氏は、GISTI(フランスの移民支援のNGO)で活動する法律家。Migreurop共同代表。移民と難民庇護に関するヨーロッパレベルの政策に関する専門家。

主要著作

Claire Rodier, *Xénophobie business : à quoi servent les contrôles migratoires?*, Paris, La Découverte, 2012.

Claire Rodier (avec la participation de Catherine Portevin), *Migrants & réfugiés : réponse aux indécis, aux inquiets et aux réticents*, Paris, La Découverte, 2016.

Claire Rodier et Emmanuel Terray, dir., *Immigration : fantasmes et réalités : pour une alternative à la fermeture des frontières*, Paris, La Découverte, 2008.

講師 クレール・ロディエ(Claire Rodier) (GISTI)

司会 森千香子(一橋大学大学院法学研究科准教授)

日時 2017年7月7日(金) 18:00~20:00

場所 駒澤大学 駒沢キャンパス 1号館3階 1-303教場

〒154-8525 東京都世田谷区駒沢1-23-1

(<https://www.komazawa-u.ac.jp/facilities/campus/komazawa.html>)

一般公開・事前予約不要

主催:JSPS科研費15KT0047 共催:第23回「移民の参加と排除に関する日仏研究会」

この講演会に関する問い合わせ先:中野裕二(駒澤大学法学部)kia1027@komazawa-u.ac.jp